

研究論文

兼六園の活用と管理運営の展望

Perspective of Utilization and Management of Kenrokuen Garden

小野 健吉

Kenkichi Ono

和歌山大学観光学部教授

キーワード：兼六園、公園、国指定名勝、庭園管理、オーバーキャパシティ

Key Words : Kenrokuen garden, public garden, national scenic spot, park management, over capacity

Abstract :

Kenrokuen garden located to the south of Kanazawa castle was a villa garden of the Maeda family, the lord of the Kaga domain in the Edo period (1603-1868). The lower garden known as Renchi-tei (Lotus pond garden) was first built in the late 17th century and the upper garden called Chitosedai was incorporated into it around 1860, the last stage of the Edo period. After the Meiji restoration, it was designated as a public garden in 1874, and as a place of scenic beauty in 1922 based on the Historic Site, Scenic Beauty and Natural Monument Preservation Law. Kenrokuen garden is now directly managed by Ishikawa prefectural government, and the garden elements such as streams, ponds, stones and more than 10,000 trees including 74 visually important trees are generally well maintained. In recent years, visitors to Kenrokuen garden count nearly 3,000,000 along with the rapid increase of number of tourists to Kanazawa city. The number of international tourists to the garden has also rapidly increased. In this paper, the following proposals for the better management of Kenrokuen garden are suggested based on the site evaluation and available data such as visitor numbers and entrance fee.

1. Entrance fee and extent of persons of free admission should be appropriately reconsidered, and the problem of “over capacity” should be solved.
2. Number of visitors for whole seasons should be balanced as much as possible.
3. Events focusing on its cultural and historic values should be planned and implemented.
4. The external appearance of shops inside the garden should be modified.

I. はじめに

筆者はこれまで、東京都の旧浜離宮庭園・小石川後楽園・六義園、横浜市の三溪園、神戸市の相楽園に関し、現状の把握・分析等に基づいてこれら文化財庭園の活用と管理運営に関する研究（考察・提言）を行ってきたⁱ。本研究はこれらの研究に連なるもので、石川県金沢市に所在する兼六園を取り上げる。

加賀藩主前田家により江戸時代に造営された庭園である兼六園は、金沢城の南に隣接する台地上に位置し、現在は大部分が文化財として特別名勝に指定されるとともに、都市公園として市民・観光者の利用に供されている（図1）。都市公園としての開設面積は114,435.65㎡で、うち特別名勝指定域104,609.73㎡など大半が財務省の所有地である。管理運営

は石川県が現地に金沢城・兼六園管理事務所を置いて直営で実施している。年間の入園者は約275万人（2018年度）で、国内で入園者数が公表されている文化財庭園の中では最多である。

本研究は、江戸時代から近現代に至る兼六園の歴史を先行研究等から概観したうえでⁱⁱ、IIに示す研究方法により得られた結果をもとに、今後の兼六園の観光を含めた活用および運営の在り方について展望することを目的としたものである。

II. 研究方法

本研究で用いた研究方法は以下のとおりである。

石川県金沢城・兼六園管理事務所（藤村秀人所長）から資料の提供を受け、筆者が2019年4月15日（月）に同

事務所において同所長と面談して提供資料に関する付帯情報も含めた説明を受けた。以下に、提供資料(後日送付を含む)を示す。

- ①「特別名勝指定地土地所有区分表・土地所有区分図」
- ②「兼六園入園者(利用者の動向):入園者年度別(昭和51年以降)、入園者月別(平成14年度以降)、外国人地域別(昭和57年度以降)」
- ③「平成30年度兼六園入園者 外国人国別内訳(兼六園案内所)」
- ④「平成30年度兼六園パンフレット配布数推定」
- ⑤「平成30年度・城と庭の探求講座「金沢城大学」」
- ⑥「平成30年度時雨亭利用状況」
- ⑦「金沢城・兼六園の利活用について:日本語ボランティアガイド/外国語ボランティアガイド(石川県公園緑地課)」
- ⑧ 金沢城・兼六園管理事務所 職員の配置状況(平成30.10.01現在)
- ⑨ その他パンフレット類等

そのうえで、上記の提供資料ならびに説明で得た情報の把握ならびに統計数値等に基づく内容分析を行った。

次に、金沢市の観光統計書から金沢の観光における兼六園の重要性等を確認するとともに、インターネットの旅行関連口

コミサイトであるトリップアドバイザーの兼六園に関する投稿の評価分布数値を把握したうえで日本語・英語による投稿を最近のものを中心に抽出し、その内容に関する若干の考察を行った。

これらに基づき、筆者のこの分野に関する従前の知見も踏まえながら、兼六園の今後の活用と管理運営の展望を示した。

Ⅲ. 兼六園の歴史

1. 江戸時代

兼六園の庭園としての歴史は、加賀藩五代藩主・前田綱紀の時代にはじまる。延宝4年(1676)、金沢城の南の百間堀を隔てた台地上にあった作事所(建築・営繕担当の役所)を他所に移し、ここに別荘を造営したのである。現在の兼六園は金沢城に近い側の蓮池庭とその南の一段高い平坦地の千歳台で構成されているが、綱紀時代に作庭されたのは蓮池庭、当時の呼び方では「蓮池の上御露地」であった。この別荘および庭は藩主の清遊・饗宴の場として利用されていたが、宝暦9年(1759)に一部焼失した。その後、安永3年(1774)に十一代藩主・治脩によって翠滝と夕顔亭が、その二年後には内橋亭が築造されて復興整備を終えている。

一方、千歳台とはいうと、寛政4年(1792)に治脩が藩校・明倫堂と経武館をこの地に設立したが、文政5年(1822)

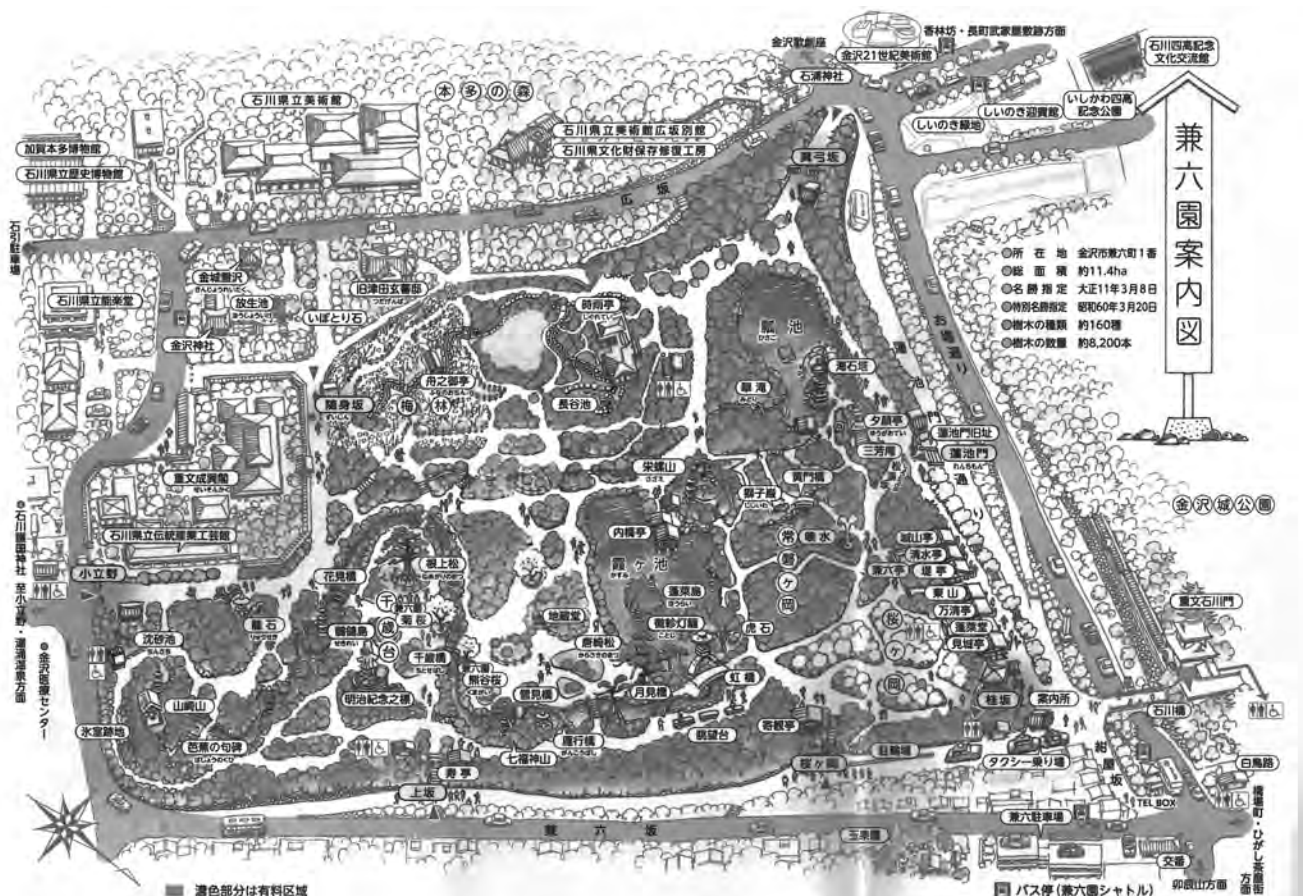


図1 兼六園案内図(石川県金沢市・兼六園事務所)

に十二代藩主・斉広がこれらを移転させてその跡地に自らの隠居所・竹沢御殿を造営する。竹沢御殿は建坪四千坪・部屋数二百という大規模な建物を擁したため、庭園部分は現状ほどの広さはなかったはずである。ところが、造営からわずか2年後に斉広が逝去する。ほどなく十三代藩主・斉泰は御殿を撤去し、池を三倍ほどに拡張して霞ヶ池と名付け、池を掘った土で栄螺山を築くとともに、園内をめぐる流れも整え、植栽も整備していく。蓮池庭とも一体化して現在の兼六園の状況が現出するのは、幕末に近い万延元年(1860)のことであった。

ところで、「兼六園」の名称が現れるのは、斉広が竹沢御殿を造営した文政5年のことであった。中国の書物『洛陽名園記』に由来するこの園名の命名者は文化人としても知られ、庭園好きでもあった奥州白河藩主・松平定信と長く考えられていた。ところが、近年、定信は斉広から扁額の揮毫を依頼されただけであったことが彼の日記から明らかになったⁱⁱⁱ。そして、「兼六園」の名称については、当初は竹沢御殿に付属する庭園で雅号的に用いられ、現在のように蓮池庭も含んだ範囲を指すようになるのは上述の万延元年以降あるいは明治時代の庭園開放後ではなかったかとの指摘がなされている^{iv}。

2. 近現代

明治6年(1873)、各地の庶民遊覧の地(「古来の勝区名人の旧跡等足る群衆遊覧ノ場所」)を「万人偕楽ノ地」として公園に指定するため書類図面等を取り揃えて大蔵省に申し出よ、という内容の太政官布告第16号が発せられる。これに基づき寺社境内地や大名庭園などが公園となるが、兼六園もまた翌明治7年5月7日にこの布告に基づく「兼六公園」として正式に一般開放される。実は、兼六園はこれに先立つ明治4年に「興楽園」の名で限定つきながら一般の入園が許可され、翌明治5年には園内に開校した金沢理化学学校により春の桜の季節に一般開放された後、同年5月からは石川県により常時開放されている。そして、園内に茶店等の出店を希望する者に対しては入札を行うとの通達もこの時になされている。現在も兼六園内には、同じく公園となった各地の大名庭園に比して飲食等を中心とした店舗が多くみられるが、それはここに由来するものであろう。こうした遊覧地としての性格とともに、兼六園は都市公園の機能である各種集会の会場提供など、金沢市における中核的都市公園としての役割も昭和戦前まで担い続けることになる。江戸時代の兼六園とは全く異質の神話時代の武人・大和武尊を象った巨大な銅像「明治記念之標」が明治14年に千歳台の中心部に造立されたのも、「市民の広場」たる都市公園の当時の性格によるものである。

一方、大正11年(1922)3月8日には、大正8年に公布された史跡名勝天然記念物保存法に基づいて「名勝」に指定され、その名称も「兼六園」の旧に復することとなる。この頃には大名庭園を江戸時代の姿に復する方向性の保勝運動が各地で展開され、兼六園も岡山後楽園などと同様に名勝す

なわち歴史的な文化財庭園としてふさわしい姿へと整えられていく。話は前後するが、明治時代中期、兼六園は岡山後楽園・水戸偕楽園(常盤公園)とともに、日本三公園の呼称を冠せられるようになる。これは、明治天皇が全国巡幸の際に立ち寄った臨幸地であったことがその「格付け」の根拠であろうとの考察がなされているが^v、やがて「三公園」が「三名園」となり、あたかもこれらの庭園が日本の代表的名園であるかのような印象が浸透していくことになるのである。

戦後になると文化財庭園としての様相がさらに強まる。昭和25年(1950)の文化財保護法により名勝となっていた兼六園は昭和51年(1976)には特別名勝に格上げされ、石川県は長年続けてきた無料公開を止めて入園料の徴収に踏み切る^{vi}。このことは、広く市民の利用に供する一般的な都市公園というよりも文化財庭園としての在り方に重きを置いた判断であった。

平成12年(2000)には、兼六園西南部の「長谷池周辺整備事業」が竣工し、明治初めに失われた時雨亭と舟之御亭の再現とともに二筋の流れも整備され、この区画で新たな庭景が展開されることとなった。

IV. 兼六園の運営形態ならびに入園者数等の現状

1. 運営形態と庭園管理

兼六園の管理運営は、前述したとおり、石川県が直営で行なっている。旧浜離宮庭園・小石川後楽園・六義園等を所管する東京都をはじめ地方公共団体が所管の文化財庭園の管理運営を指定管理者に委ねる事例が増えるなか、隣接する金沢城と兼六園を充実した直営の組織体制で一体的に管理運営している石川県のような事例は減りつつある^{vii}。担当する金沢城・兼六園管理事務所は、所長1名・次長2名以下、庶務課・金沢城公園課・兼六園課の3課体制で、兼六園の庭園維持管理業務等に従事しているのは兼六園課員2名、庶務課所属の庭師6名、作業員(嘱託・臨時職員)22名(いずれも2018年10月1日現在)である。実際の庭園管理の技術的中核をなす庭師が県職員であり、安定的に技術が伝承される体制となっている点は高く評価できる。

兼六園は、庭師による樹木管理や作業員による清掃・除草ならびに一部の維持管理業務の業者委託により全体の庭園管理がなされている。兼六園には11,800本の樹木があり、そのうち推定樹齢100年以上のものが約400本、「唐崎松」や「根上松」といった名木が74本を数える。これらの樹木管理は、庭園景観を適正に保つうえで特に重要であり、剪定・整枝や病虫害駆除にくわえ冬の兼六園の風物詩にもなっている雪吊りなどの作業が、それぞれの作業適期に配慮した年間スケジュールに基づいてなされている。兼六園は、上述の樹木のほか、園路、池や流れ等の水質・水景観等も良好に維持管理されており、こうした良好な維持管理が庭園としての兼六園の魅力を支えていることは言うまでもない。一点改善すべ

き点を指摘するとすれば、園内の一部の店舗の庭園景観への配慮の欠如である。店舗の外観も現在の兼六園の庭園景観を構成していることを十分認識し、その改善によって兼六園全体の印象の向上を図ることが望まれる。

2. 入園者の動向

(1) 入園者数の経年変化

まず、特別名勝に指定された1976年度以降の入園者統計から、入園者数の動向を見ておきたい（表1）。1976年度に2,304,207人であった入園者数は、北陸自動車道米原～金沢西間が開通して約2,817,151人を数えた1980年度を除き、1983年度まで230万人から250万人前後で推移する。1984～86年度にかけて、それまで大人100円だった入園料を150円、200円、300円（86年度には小人も50円から100円に改定）と改定したが、この入園料値上げによる入園者数への影響はほとんどみられず、むしろ漸増しながら1989年度には2,913,230人、そして1991年度にはこれまで最多の3,147,743人の入園者を数えることになる。ところが、夏季の猛暑とともに年度第4四半期の95年1月に阪神大震災が起きた1994年度には2,533,627人と入園者数は落ち込み、

表1 兼六園年度別入園者数（入園者数単位：人）

年度	入園者数	備考
1976	2,304,207	9月有料化（大人100円・小人50円）
...
1980	2,817,151	北陸自動車道 米原～金沢西間開通（4月）
...
1983	2,320,077	東京ディズニーランド開園、東北新幹線開通
1984	2,507,272	料金改定（7月～）大人150円
1985	2,451,637	料金改定（7月～）大人200円
1986	2,652,029	料金改定（7月～）大人300円・小人100円
1987	2,553,877	
1988	2,757,319	北陸自動車道全線開通（7月20日）
1989	2,913,230	
1990	2,862,101	大阪・花と緑の博覧会（4～9月）
1991	3,147,743	入園者過去最多・石川国体無料開園
1992	2,885,799	ジャパンエキスポ富山（7～9月）
1993	2,827,779	観桜期無料開園1週間延長
1994	2,533,627	記録的猛暑・阪神大震災（95年1月17日）
...
1997	2,105,919	県民観賞の日創設（1月から）
1998	1,901,501	
1999	1,775,932	早朝無料入園制度創設（9月から）
...
2010	1,637,977	記録的猛暑・東北大震災（11年3月11日）
2011	1,549,448	入園者過去最少
2012	1,732,992	
2013	1,726,743	
2014	2,037,240	北陸新幹線金沢開業（15年3月14日）
2015	3,089,219	
2016	2,911,660	
2017	2,799,636	
2018	2,748,174	

以後減少が続いて1998年度は1,901,501人と200万人の万台を割り込む。その後も入園者数は160～190万人強の状況が長らく続き、入園者が200万人を回復するのは、年度末に北陸新幹線金沢開業があった2014年度のことであった。そして、北陸新幹線効果が全面的に表れる翌2015年度には一気に入園者は3,089,219人に増加する。以後、若干の減少はあるものの、平成30年度においても入園者数は2,748,174人を数えている。ここで注目すべきは、何といても北陸新幹線金沢開業効果である。兼六園において、前年度比1.5倍、実数にして100万人以上の入園者数増加をもたらした新幹線効果は、もちろん兼六園だけでなく、金沢市とその近郊においても観光者数の大幅な増加をもたらしたことは言うまでもない。北陸新幹線効果は首都圏から金沢をはじめとする北陸方面への観光を喚起したものであり、首都圏から北陸方面への潜在的な観光需要が極めて大きかったことが窺える。

ところで、2015年度の308万人をはじめ現状の300万人に近い年間入園者数は、他の比較的近い規模の公開大名庭園、例えば六義園（東京都）の820,756人（2015年度・面積約88,000㎡）や岡山後楽園の824,499人（2018年度・面積約133,000㎡）に比べても3.5倍程度にのぼる。現状の兼六園は、後述する桜や紅葉のシーズンを中心に、入園者数が文化財庭園を理解したうえで楽しむことができる許容を超えたオーバーキャパシティの状態にあると考えられる。

(2) 近年の季節別入園者数

植物を重要な構成要素とする庭園は、一般に季節によってその装いを変えることから、各季節の入園者数を把握し分析することは、庭園の管理運営を検討するうえでも重要である。2014～18年度の月別入園者統計（表2）から、このことについて、考えてみたい。

入園者数が2,037,240人であった2014年度と3,089,219人の2015年度を比べて気付くのは、各月の入園者数が150%以上、月によっては200%以上を記録しているなかで、4月と3月だけはそれぞれ101%と119%に止まっていることであ

表2 2014～18年度月別入園者（入園者数単位：人、右3列の比率単位：%）

	2014	2015	2016	2017	2018	2015/2014	2018/2014	2018/2017
4月	535,629	542,565	597,295	598,921	502,643	101.29	93.84	83.92
5月	172,618	295,900	271,816	266,233	247,475	171.42	143.37	92.95
6月	116,282	211,164	180,336	167,729	176,931	181.60	152.16	105.49
7月	83,469	165,338	152,277	136,578	128,644	198.08	154.12	94.19
8月	147,237	259,200	254,829	244,778	237,205	176.04	161.10	96.91
9月	122,194	251,054	203,193	186,674	192,425	205.46	157.47	103.08
10月	154,093	265,701	241,729	212,078	213,809	172.43	138.75	100.82
11月	209,000	317,334	283,098	264,591	319,398	151.83	152.82	120.71
12月	80,359	163,279	159,726	151,929	161,451	203.19	200.91	106.27
1月	91,848	187,180	179,583	155,930	165,146	203.79	179.80	105.91
2月	123,830	191,159	160,703	159,540	194,824	154.37	157.33	122.12
3月	200,681	239,345	227,075	254,655	208,223	119.27	103.76	81.77
計	2,037,240	3,089,219	2,911,660	2,799,636	2,748,174	151.64	134.90	98.16

る。4月と3月は言うまでもなく観桜期であり、桜のある庭園・公園等はどこも多く来園者で賑わう。兼六園も例外ではなく、4月が年間で最多の入園者を数える月である。14年度から15年度にかけて全体で入園者が1.5倍に増加するなかで、この最多客期だけ伸び率が明らかに低かった理由としては、首都圏からの来園者があらかじめ混雑を予測して避けたこと、あるいはこの時期は桜を楽しめる公園・庭園等が他にも多いことが考えられる。一方、増加率が200%に近いあるいはそれを超えた月は、7・9・12・1月である。これらの月は、2014年度の入園者数が少ない順で並べると5位以内の月であり、母数の少なさがこの高い増加率につながったことが指摘できる。一般に、屋外施設である庭園を公開する場合、春秋の多客期と夏・冬の少客期の差をいかに小さくするかが共通の課題である。その意味で、北陸新幹線金沢開業効果として兼六園入園者が少客期に相対的に大きな伸びを見せたことは、兼六園の管理運営の立場から見ると好ましい現象であったと解釈できる。そして、特に冬季の12・1月ではこの現象が一過性に終わっていないことが2016～18年度の統計からも窺える。

ところで、各年度とも50万人以上と突出して入園者が多いのが観桜期の4月である。年により変動はあるものの、観桜期にあたる4月上旬から中旬にかけての兼六園は相当なオーバーキャパシティ状態となる(図2)。兼六園では、ほかにも同じく観桜期にかかる3月下旬や紅葉シーズンの11月中下旬などもオーバーキャパシティの状態にあると考えられる。オーバーキャパシティ状態では桜のような目的対象物が見られたという一定の充足感は想定できるものの、入園者の満足度は総じて低くなる。あわせて、園路等の劣化対応やゴミ処理といった庭園管理上の負荷がかかることも懸念される。

(3) 外国人入園者

兼六園では、1982年度以降、外国人入園者については、口頭での聞き取りで発国を確認し、発国別ともに発地域別に統計化している(表3)。ここでは、2018年度までの統計を基に、



図2 観桜期の兼六園(2018年4月16日、筆者撮影)

外国人入園者数の経年変化、ならびに発地域の変遷を追うことにする。

1976年度にわずか569人であった外国人入園者は1980年度には5,695人に増え、国別統計を開始した1983年度には16,128人であった。その後、1992年度には34,437人に増え、総入園者数が200万人を切って低迷する1998～2013年度においても外国人入園者数は、東北大震災の影響で訪日外国人観光者自体が大きく減少した2011年度を除いて概ね順調に増加し、2013年度には198,630人、2014年度には243,419人に達する。北陸新幹線金沢開業で総入園者数が300万人を突破した2015年度には312,105人となり、以後も訪日観光者の急増に伴って増加を続け、2018年度には444,504人と総入園者の16.2%、六分の一近くを占めるに至っている。

次に地域別外国人入園者に注目してみよう。1983年度の外国人入園者は16,128人で、そのうち最多の発地域は、全体の約半数を占める7,808人の北米、以下アジア3,231人、ヨーロッパ(西欧)1,940人と続く。ところが、1985年度にはアジアが北米を抑えて最多となり、1987年度からは常にアジアからの入園者が最多を続けている。外国人入園者数が3万人を超えた1992年度には、19,304人を数えたアジアが北米の3倍以上となっている。その後もアジア発の入園者は増加を続け、2010年度には96,423人となる。東北大震災の影響を受けた2011年度には激減するものの翌年度には回復し、2013年度以降は2015年の中国に対するビザ発給条件緩和などもあってさらに増加の勢いを増し、2018年度には295,053人となっている。アジア以外の地域に目を向けると、概ね4,000～7,000人台で推移していた北米が2013年度には9,825人に増加し、以後は大幅に入園者数を伸ばして2018年度には30,805人を記録している。また、ヨーロッパ(西欧)も初めて2万人を超えた2014年度以降急増し2018年度には78,737人と北米の約2.6倍を示し、アジアに次ぐ入園者数を示している。オセアニアも2015年度以降に急増し、2018年度には17,868人を記録している。

上述のとおり、2018年度は外国人入園者総数ならびに各地域からの外国人入園者数が過去最多を記録したが、この年の国別入園者数を確認しておきたい(表4)。台湾が164,882人と他を引き離れた1位で、外国人入園者の37%を占める。さらに3万人台の中国・香港を加えると中国系で24万人を超えて54%を占める。タイ・インドネシア・マレーシア・シンガポールの東南アジア4か国は10位代上位に名を連ね、合計で34,844人である。一方、ヨーロッパでは、5位イタリア18,360人と6位フランス16,854人が9・10位のスペイン11,781人・イギリス11,729人や16位のドイツ6,761人を大きく引き離していることが注目される。なお、兼六園では、英語・中国語(繁体字)・中国語(簡体字)・朝鮮語・フランス語・イタリア語・韓国語・スペイン語・タイ語の9言語のパンフレッ

表3 兼六園 外国人地域別入園者数

年度	北米	ヨーロッパ (西欧)	オセアニア	旧ソ連・ 東・北欧	アフリカ	中東	アジア	中南米	不明	計
1976	—	—	—	—	—	—	—	—	—	569
...										
1980	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5,695
...										
1983	7,808	1,940	1,024	1,439	44	514	3,231	128	0	16,128
1984	7,586	3,151	1,471	1,454	47	782	5,804	112	0	20,407
1985	7,742	2,310	1,448	1,718	38	577	9,725	180	591	24,329
1986	7,292	2,517	856	1,360	35	396	6,587	103	1,400	20,546
1987	6,053	2,822	755	2,162	35	255	9,257	171	332	21,842
1988	4,052	2,118	728	281	21	102	8,693	194	3	16,192
1989	6,233	2,661	913	573	54	102	12,940	130	3	23,609
1990	6,279	3,222	1,402	511	33	96	11,375	239	3	23,160
1991	6,438	2,927	1,051	443	30	113	13,953	173	1,311	26,439
1992	6,223	3,236	1,084	371	33	97	19,304	185	3,904	34,437
...										
1997	4,063	1,904	703	339	36	73	16,329	175	0	23,622
1998	5,070	2,546	918	541	32	80	16,013	95	0	25,295
1999	5,630	2,483	901	831	12	90	17,342	112	0	27,401
...										
2010	7,907	17,715	3,937	2,191	120	1,032	96,423	653	0	129,978
2011	3,281	5,371	2,046	1,139	116	237	66,860	446	0	79,496
2012	5,855	10,551	3,364	1,944	127	1,054	97,753	639	0	121,287
2013	9,825	16,873	4,892	2,763	131	1,980	161,031	1,135	0	198,630
2014	12,062	24,948	6,918	3,108	229	3,550	191,014	1,590	0	243,419
2015	19,531	41,650	11,399	4,385	521	4,053	227,949	2,617	0	312,105
2016	24,051	54,307	13,248	5,166	313	6,159	257,208	2,810	0	363,262
2017	26,365	60,130	15,361	5,801	375	6,710	263,262	3,831	0	381,835
2018	30,805	78,737	17,868	7,829	691	8,840	295,053	4,681	0	444,504

表4 2018年度国等別外国人入園者数
(単位:人)

順位	国 等	入園者数
1	台湾	164,882
2	中国	39,456
3	香港	37,275
4	アメリカ	25,894
5	イタリア	18,360
6	フランス	16,854
7	オーストラリア	16,493
8	韓国	13,541
9	スペイン	11,781
10	イギリス	11,729
1～10位計		356,265
11	タイ	9,711
12	インドネシア	8,704
13	マレーシア	8,488
14	イスラエル	8,454
15	シンガポール	7,941
16	ドイツ	6,761
17	カナダ	4,846
18	オランダ	3,819
19	スイス	3,727
20	ベルギー	2,305
11～20位計		64,756
1～20位計		421,021
外国人総入園者数		444,504

* 網かけはアジア

トが用意されており、入園者数から推定したそれぞれの2018年度における配布数は表5のとおりである。

以上を簡略に取りまとめておきたい。まず、近年の訪日外国人観光者の急増と軌を一にして金沢市への外国人観光者も急増し^{viii}、あわせて兼六園への外国人入園者も大幅に増えており、2018年度には入園者総数の16%以上になっていることが注目される。地域別でみると、アジアからの観光者の入園数が多く、とりわけ台湾の入園者の多さが特筆される。これは台湾からの訪日観光者にリピーターが多く、なおかつ台湾では見られない紅葉や雪景色などの季節性が金沢とその代表的観光スポットである兼六園への来訪につながっているためと解釈できる。ヨーロッパ発観光者の入園者も以前に比べると大幅に増加している。一般に滞在日数が長い遠隔地からの観光者は周遊する傾向が強いことから、ヨーロッパ発の観光者は金沢まで足を伸ばすことが比較的多いと推測され、それがこうした結果につながっているものとみられる。ヨーロッパの中でもイタリアとフランスからの入園者が多いのは、イタリアでは全土で歴史的庭園が観光対象として認識されていること、フランス

表5 2018年度兼六園パンフレット推定配布数

言語	英語	中国語 (繁体字)	中国語 (簡体字)	フランス語	イタリア語	スペイン語	韓国語	タイ語
推定配布数	132,000	213,000	42,000	22,000	20,000	16,000	15,000	11,000

では日本文化一般に対する関心が高いことがその理由と推測される。また、意外に少ないドイツ発の観光者の金沢ならびに兼六園の誘致につながる有効な情報発信も考慮すべきであろう^{ix}。

3. 入園料

兼六園の入園料は大人（18歳以上）310円、小人（6歳～18歳未満）100円で、団体（30人以上）割引だと大人250円、小人80円となる（2019年9月現在）。また、65歳以上・障がい者・学校行事等・その他（生活保護施設、身体障害者更生養護施設等入所者）は入園料免除としている。開園時間は、3月1日～10月15日が午前7時～午後6時、10月16日～2月末日が午前8時～午後5時であるが、通年で有料開園15分前までの時間には早朝開園を実施している（早朝開園開始時間は季節により午前4時、5時または6時）。この早朝開園については入園無料であり、さらに春夏秋冬において金沢城と一体的にライトアップの行われる期間の夜間入園も無料となっている。このほか、4月上旬の観桜期や初夏の百万石まつり、旧盆期間・文化の日・年末年始も入園料無料としている。

兼六園は都市公園としての歴史が長く、1976年までは無料開放されてきた。文化財庭園であるとともに、金沢市中心部の石川県民・金沢市民の緑の公共空間としての役割も持つこともあって、有料化後も料金は低く設定されている。また、通年実施の早朝ならびにライトアップ期間の夜間の無料開園にくわえて観桜期や百万石祭りなど年間18日（2019年度）の無料開園日の設定も行っている。さらに、県民に観賞機会を提供する観点で、1年を通して土・日曜日は石川県民の入園料を免除している。その結果、2018年度の統計（兼六園入園者・入園料調べ）によれば、入園料免除者数は65歳以上262,315人をはじめ県民観賞46,943人など合計366,665人にのぼる^x。これは、入園者全体の13.3%に相当する。

入園料等に関するこうした施策は行政サービスの観点からは望ましいとの見方があるかもしれないが、観光者を含め入園者数が激増している現状では、入園料が入園者数の抑制要因としてとして一定の効果を持つとの観点から、再検討の必要があろう。入園料は、実質的には30年以上据え置かれており、500円程度への値上げは十分に理解を得られるものであろう。また、観桜期をはじめとした繁忙期の無料開放は、オーバーキャパシティの誘因となって文化財庭園に負担を与えるだけでなく、後述する旅行関連口コミサイト・トリップアドバイザーの一部投稿にも見られるように、入園者の満足度を下げることにもつながりかねない。繁忙期にはむしろ特別料金を徴収して、結果的に入園者を絞るという逆の対応も考えうる。また、65歳以上の入園料一律免除も、県費で管理運営していることに鑑みれば、石川県民に限るのが当然と言ってもよいであろう^{xi}。土・日の県民無料も、むしろ土・日以外の週日の一

部、例えば月・水（どうしても休日を含める必要があれば木・土）などを無料とするほうが入園者の分散につながると考えられる。ライトアップ期間の夜間無料開園も、要する経費等に鑑みれば有料化が妥当である。いずれにせよ、入園料・無料開園日・入園料免除対象範囲などについては、入園者の可能な限りの分散化・平準化により季節的なオーバーキャパシティを緩和するとともに、従来あるいはそれ以上の入園料収入が確保できる方向での検討が求められる。

V. 兼六園における活用の取り組み

1. 行事（イベント）等

金沢城・兼六園のウェブサイトでは、3か月ごとに春夏秋冬の四季に分けたうえで、年間のイベントを季節ごとに掲載している。2019年度の金沢城・兼六園のイベント予定を取りまとめて作成したのが、表6である。前述したように、各季節で兼六園の無料入園日が設定されているほか、期間を限った季節ごとのライトアップや7月のホテル観賞、9月の名月観賞といった夜間開園を伴うイベントも目立つ（表6の「イベント名」列の「アミカケ」）。また、植物が重要な要素となる庭園の本質を活かした「四季の花めぐりツアー」も各季節に設定されている。こうしたイベントが兼六園の魅力増進や集客に寄与していることは確かであろう。これらのイベントのうち2018年度にも実施された複数の事業の参加者等実績を表7に示し、それらも参照しながら、実施イベントについて以下に若干の検討を加えておきたい。

まず、夜間開園は、入園者に庭園の非日常性を感じさせるとともに観光者の宿泊につながる点で、観光の観点からも効果的な取り組みである。一方で、照明や警備等での経費増大を伴う側面もあることから、入園者数の実態から実施時期等についてのレビューも不可欠であろう。紅葉・雪吊りの夜景を見せる秋季（11月）や雪吊りの夜景を見せる冬季（1・2月）のライトアップがその時期の宿泊観光の増加に一定程度寄与しているのは確かであろうが、秋季23日・冬季19日という日数は過剰に思える。むしろ秋季・冬季のライトアップ日数を減らし、暑い日中よりも夜の方が入園者にとっては快適な夏季においてライトアップによる夜間開園日数を現況（8月に8日）より増やすことを検討すべきであろう。なお、ライトアップ期間中の無料開園は、前述のとおり、有料化が妥当と考える。また、「四季の花めぐりツアー」は文化資源であるとともに自然資源の側面を持つ庭園ではよく行われるイベントであるが、兼六園では参加者が少ないのが実情である。これは、観光者向けというよりもむしろ児童生徒を含めた市民・県民向けのイベントとして積極的に広報し、回数を増やすことも考えたい。一方で、文化資源としての兼六園の特質を活かした園内でのイベントはあまり行われておらず、企画の充実が望まれる。

そうしたなかで、石川県立美術館ホールなどを会場に、「いしかわ県民大学校」教養講座として「金沢城大学」が

表6 2019年度 兼六園・金沢城の年間イベント

春 物 語	兼六園無料開園 & 金沢城・兼六園観桜期ライトアップ	4月5日(金)～4月11日(木)	7:00～21:30	
	四季の花巡りツアー	4月27日(土)	10:00～	金沢城と兼六園の春の花を巡る
	金沢城・兼六園ライトアップ【春の段】	4月26日(金)～5月5日(日・祝)	18:30～21:00	
	玉泉院丸庭園ライトアップコンサート	5月3日(金・祝)～5日(日・祝)	19:30～20:20	時間内に2ステージ演奏
	百万石菓子百工展	5月3日(金・祝)～5日(日・祝)		金沢城公園に加賀百万石の和菓子が大集合 主催:百万石菓子百工展実行委員会
	春の城と庭のおもてなし【端午の節句を祝う】	5月3日(金・祝)～5日(日・祝)		金沢城公園にてもてなしイベント
	兼六園開園記念日	5月7日(火)		兼六園が開園された記念日に茶会等を開催 (茶会は兼六園観光協会主催)
夏 物 語	兼六園無料開園【百万石まつり】	5月31日(金)～6月2日(日)	7:00～18:00	
	金沢城・兼六園ライトアップ【初夏の段】	5月31日(金)～6月2日(日)	18:30～21:00	
	金沢百万石まつり関連行事 入城祝祭	6月1日(土)	16:00～18:00	「金沢百万石まつり」のメインイベント 金沢百万石まつり実行委員会主催
	金沢百万石まつり関連行事 百万石薪能	6月1日(土)	19:00～21:00	幽玄な能の世界 金沢百万石まつり実行委員会
	金沢城・兼六園四季物語【ホタル観賞会】	7月13日(土)～14日(日)、 19日(金)～20日(土)	19:00～21:30	
	四季の花巡りツアー	7月		兼六園のキノコ紹介と園の散策
	ひゃくまんさんと親子で抹茶体験	8月3日(土)		お茶席でのお作法を習う(予約優先)
	四季の花巡りツアー	8月		金沢城公園や兼六園の豊かな緑を巡る
	金沢城・兼六園四季物語【夏の段】	8月2日(金)・3日(土)・10日(土)・11日(日・祝)・16日(金)・ 17日(土)・23日(金)・24日(土)	18:30～21:00	
秋 物 語	玉泉院丸庭園ライトアップコンサート	8月		
	兼六園無料開園【夏休み】	8月14日(水)～16日(金)	7:00～18:00	
	秋の城と庭のおもてなし【中秋の名月観賞の夕べ】	9月13日(金)～17日(火)	19:00～21:00	金沢城公園と兼六園夜間開園。名園と城に浮かぶ名月観賞
	四季の花巡りツアー	10月		兼六園のキノコ紹介と初秋の園を散策
	金沢城・兼六園ライトアップ【秋の段】	11月2日(土)～24日(日)	17:30～21:00	
冬 物 語	兼六園無料開園【文化の日】	11月3日(日・祝)	8:00～17:00	
	四季の花巡りツアー	11月		紅葉めぐりで秋を満喫
	兼六園無料開園【年末・年始】	12月31日(火)～令和2年1月3日(金)	8:00～17:00	12月31日午後5時から1月1日午前8時にかけては終夜開園
	冬のおもてなし	2月中旬～下旬		
	金沢城・兼六園ライトアップ【冬の段】	1月24日(金)～2月2日(火)、 2月8日(土)～16日(日)	17:30～21:00	
	四季の花巡りツアー	3月中旬		

斜体字のイベントは、金沢城公園のみで開催のイベント
<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/event/index.html> から作成

表7 2018年度イベント実績

	イベント	実施年月日	参加者
春	四季の花巡りりツアー・春の兼六園	2018.4.28	8
	兼六園開園記念「兼六園のもみじ」進呈	2018.5.7	400
	兼六園開園記念「落雁」進呈	2018.5.7	200
夏	四季の花巡りりツアー・兼六園のキノコ(1)	2018.7.1	17
	ひゃくまんさんと親子で抹茶体験	2018.8.4	51組
秋	夜間特別開放(兼六園蓮池門口)	2018.9.23～27	1,993
	観月ミニコンサート	2018.9.23～24	468
	四季の花巡りりツアー・兼六園のキノコ(2)	2018.10.14	18
	四季の花巡りりツアー・金沢城公園と兼六園の紅葉	2018.11.24	28
冬	四季の花巡りりツアー・梅の花と春を迎える植物	2019.3.16	72

表8 2018年度供用講座「金沢城大学」

	年月日	講 座	参加者数
1	2018.10.13	金沢城庭園の歴史と特徴	126
2	2018.10.13	加賀藩の支藩の庭園	136
		加賀藩の支藩の江戸藩邸庭園	
		城郭内に造営された庭園 ー赤穂城の場合ー	
		戦国城下町一乗谷の館・屋敷における作庭	
		金沢城庭園の特徴 支藩・判定・他藩の城・戦国上官庭園との対比から	
3	2018.11.08	網紀と愛本刳橋	161
4	2018.11.15	鼠多門・鼠多門橋の発掘考古	147
5	2018.11.22	鼠多門の石垣の保存修理について	132
6	2018.12.06	鼠多門・鼠多門橋の復元・整備について	155
7	2018.12.13	兼六園の石組みについて	155
8	2019.02.07	利常お気に入りの作事奉行 佃田源太左衛門	177
9	2019.02.21	加賀藩前田家の鷹狩	114
10	2019.03.14	加賀藩の行刑	156

2002 年度以来実施されている^{xii}。2018 年度の講座タイトルと受講者数は表8のとおりである。15 歳以上を対象に定員 200 名・無料・申込不要、7 回以上の受講者には修了証書を交付するという設定で、受講者数は定員の 6 割弱～9 割弱の 114～177 人となっている。受講者の大半は金沢市民・石川県民とみられ、こうした受講者に文化資源としての金沢城・兼六園の歴史や価値を理解してもらうことはたいへん意義があることと考える。今後は、こうした講座の現地開催、講座と関連した現地でのイベントの企画も望まれるところである。

2. 抹茶・煎茶等の時雨亭の活用

2000 年に整備を終えた長谷池周辺地区の中核となるのが再現された時雨亭^{xiii}で、ここは無料の見学・休憩施設であるとともに、抹茶・煎茶の有料サービスを提供する施設としても利用されている。呈茶料金は、抹茶が 720 円（時雨亭オリジナル生和菓子付き）、煎茶 310 円（和菓子付き）で、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）を除き通年、午前 9 時～午後 4 時半が利用時間となっている。2018 年度の時雨亭利用状況を示したのが表9である。ここから読み取れることを以下に取りまとめる。

まず、抹茶・煎茶サービスの利用者を見ると、料金差があるにもかかわらず、各月とも抹茶が煎茶を上回る。その利用者合計は最少の 3,556 人（1 月）から最多の 5,817 人（3 月）の間に収まり、入園者数に対する抹茶・煎茶サービス利用者比率は 1.1%（4 月）～3.0%（7 月）である。比率の差は、サービス利用者の月変動が比較的小さいなか母数となる入園者数に大きな差があることによる。全般に、利用者数・利用率ともに他事例^{xiv}に比べ低い理由は、園内に茶店や売店等が多いことによると考えてよいだろう。また、抹茶・煎茶サービスを受けない見学者も含めた時雨亭利用者は 4,238 人（1 月）～8,413 人（8 月）で、利用率は 1.5%（4 月）～4.4%（7 月）。

表 9 2018 年度 時雨亭利用者数

月	兼六園 入園者	時雨亭							
		抹茶	煎茶	(抹茶・ 煎茶計)	見学	(抹茶・煎茶・ 見学計)	貸亭		計
							件数	人数	
4 月	502,643	4,129	1,428	5,557	1,836	7,393			7,393
5 月	247,475	4,074	1,357	5,431	1,793	7,224	1	165	7,389
6 月	176,931	2,723	1,160	3,883	1,052	4,935	2	847	5,782
7 月	128,644	2,419	1,459	3,878	1,830	5,708			5,708
8 月	237,205	3,697	2,008	5,705	2,708	8,413			8,413
9 月	192,425	4,045	1,546	5,591	1,535	7,126			7,126
10 月	213,809	3,552	1,395	4,947	1,655	6,602	4	117	7,719
11 月	319,398	4,243	1,295	5,538	1,375	6,913			6,913
12 月	161,451	2,910	975	3,885	749	4,634			4,634
1 月	165,146	2,671	885	3,556	682	4,238			4,238
2 月	194,824	3,380	1,086	4,466	759	5,225	3	66	5,291
3 月	208,223	4,379	1,438	5,817	1,265	7,082			7,082
計	2,748,174	42,222	16,032	58,254	17,239	75,493	10	2,195	77,688

利用率が高いのは 7・8・9 月の夏季であり、屋外の暑さを避けての利用が多いものと見られる。

また、時雨亭の一部貸または全亭貸も行っているが、これは年間であわせて 10 件と少ない。その理由は、全亭全日貸の場合 63,360 円など、貸出料金が比較的高額であるためと考えられる^{xv}。なお、全亭貸は時雨亭の一般利用が不可能になることから、むしろ部分貸に絞ることを考えてよいかもしれない。

3. ボランティアガイド

日本語ボランティアガイドは、金沢城公園において 2004 年 5 月から本格的に活動を開始した。その後、兼六園についても毎週土・日曜日に活動するようになり、2011 年度からは平日の案内も実施している。現在は、「城と庭ボランティアガイドの会」（会員数 125 人）に業務委託しており、会はボランティアガイドに交通費相当分として定額を受託料から支払っている。

一方、外国語ボランティアガイドは、2009 年度からの 3 年間の養成講座を経て 2012 年度からガイド活動を開始した。現在は、養成講座でも協力を得た「金沢グッドウィルガイドネットワーク (KGGN)」に窓口対応と園内ガイドを業務委託している。KGGN 会員で「城と庭ガイド」に登録しているのは、英語 99 名・中国語 8 名・韓国語 2 名・その他 6 名である。

表 10 は、過去 5 年間の日本語・外国語ボランティアガイドの実績である（いずれも、金沢城公園と兼六園の合計）。日本語ガイドは、北陸新幹線金沢開業に伴い金沢城公園・兼六園への入園者が急増した 2015 年度に利用者が急増したが、その後の各年は増減の幅が大きい。外国語については、窓口対応利用者が 2015 年度に急増し、その後も着実に増加している。また、園内ガイドも外国人入園者の増加に伴って着実にその利用者は増えている。

表 10 金沢城公園・兼六園ボランティアガイド利用者

（単位：人）

	日本語 ボランティア ガイド	外国語ボランティア ガイド	
		窓口対応	園内ガイド
2014	10,413	6,998	3,688
2015	38,212	16,023	4,521
2016	29,342	19,917	5,490
2017	40,354	21,814	6,009
2018	22,587	23,245	10,004

VI. 金沢市の観光と兼六園

1. 統計からみた金沢市の観光と兼六園

2019年5月公表の「平成30年度（2018年度）金沢市観光統計書」^{xxi}から、金沢市をはじめとする金沢地域を訪問した観光者数を確認しておきたい。表11に見るとおり、3月に北陸新幹線金沢開業があった2015年は、観光者総数が前年に比べ20%近く増加し一千万人を超えている。兼六園入園者も前年比でほぼ1.5倍（146.6%）と急激な伸びを見せ、その後の年もほぼ同水準を維持している。観光者総数に占める兼六園入園者数の比率に注目しても、2014年の23.3%から2015年の28.7%へと大きな伸びを見せている。発地別観光者数（表12）を見ると、2015年に金沢地域を訪れる観光者が急増したのは当然ながら関東地方で、139万人から251.5万人へと約1.8倍の伸びを見せる。2015年に観光者総数以上に兼六園入園者の増加率が高かったのは、急増した関東地方からの観光者の多くが兼六園を訪れたためと考

えてよいだろう。

ところで、文化観光資源として兼六園とともに人気が高いのが金沢21世紀美術館である。兼六園真弓坂口の斜め向かいにあるこの美術館は2004年の開館で、斬新な建築意匠と現代アートのコレクションで知られる。近年は兼六園・21世紀美術館ともに二百万人を超える入場者（後者は無料区域含む）を数えている（表13）。2017年度における兼六園と金沢21世紀美術館の月別入場者数（表14）を見ると、通年では兼六園入園者が約40万人上回るが、月別では7～10月の4か月間は金沢21世紀美術館が上回る。近年の夏季の異常な高温に鑑みればこの時期に屋外の兼六園の入園者が減少するのはやむを得ない。兼六園としては、この時期はむしろ早朝や午前の早い時間あるいは夜間開園等で兼六園の魅力を伝えていくことが求められる。

表11 年別金沢地域*観光客と兼六園入園者

（単位：人）

年**	A 観光客総数	B 兼六園入園者	B/A（%）
2008	7,522	1,820	24.2
2009	7,625	1,836	24.1
2010	8,152	1,700	20.9
2011	7,618	1,537	20.2
2012	7,942	1,705	21.5
2013	8,239	1,703	20.7
2014	8,442	1,970	23.3
2015	10,064	2,888	28.7
2016	10,335	2,961	28.7
2017	10,221	2,797	27.4

*「金沢地域」は金沢市・かほく市・白山市（旧松任市・美川町）・野々市市（旧野々市町）・津幡町・内灘町

** 会計年度（4～翌3月）ではなく、自然年（1～12月）

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/26166/1/toukeishoH30.pdf?20190426171728>

表12 発地別観光客数

（単位：千人）

年	総数	県内	富山県	福井県	関東	中京	関西	その他
2008	7,522	3,589	483	233	1,156	569	585	906
2009	7,625	3,483	485	253	1,202	607	609	987
2010	8,152	3,819	485	261	1,281	599	600	1,108
2011	7,618	3,644	422	230	1,064	561	589	1,110
2012	7,942	3,679	383	248	1,105	636	655	1,235
2013	8,239	3,562	329	288	1,311	675	906	1,169
2014	8,442	3,503	322	284	1,390	721	956	1,267
2015	10,064	3,508	381	299	2,515	742	1,052	1,566
2016	10,335	3,478	425	316	2,405	776	1,095	1,840
2017	10,221	3,287	428	299	2,352	744	1,059	2,052

表14 2017年度兼六園・金沢21世紀美術館月別入場者数

表13 兼六園・金沢21世紀美術館年度別入場者数

年度	兼六園	21世紀美術館
2008	1,822,336	1,567,371
2009	1,832,220	1,520,508
2010	1,637,977	1,549,651
2011	1,549,448	1,487,285
2012	1,732,992	1,471,487
2013	1,726,743	1,474,225
2014	2,037,240	1,761,324
2015	3,089,219	2,372,821
2016	2,911,660	2,554,157
2017	2,799,636	2,373,048
計	21,139,471	18,131,877

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/26166/1/toukeishoH30.pdf?20190426171728>

	兼六園	21世紀美術館
4月	598,921	185,109
5月	266,233	228,623
6月	167,729	160,256
7月	136,578	178,564
8月	244,778	311,833
9月	186,674	227,684
10月	212,078	213,609
11月	264,591	211,235
12月	151,929	136,865
1月	155,930	142,561
2月	159,510	139,509
3月	254,655	237,200
計	2,799,606	2,373,048

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/26166/1/toukeishoH30.pdf?20190426171728>

2. トリップアドバイザーの兼六園の評価

ここで、世界最大級のインターネット旅行関連口コミサイトであるトリップアドバイザーでの兼六園の口コミ評価を見ておきたい。2019年9月2日のアクセス時点での投稿総数は5,480件で、うち日本語が2,501件、英語が1,896件、中国語（簡体字）が314件、中国語（繁体字）が301件などとなっている。全体5,480件の評価を見ると、「とても良い」3,080件（56.2%）、「良い」1,858件（33.9%）、「普通」493件（9.0%）、「悪い」39件（0.7%）、「とても悪い」10件（0.2%）であり、一般的に高い評価を受けている。日本語の投稿での評価は「とても良い」1,051件（42.0%）、「良い」1,096件（43.8%）、「普通」324件（13.0%）、「悪い」22件（0.9%）、「とても悪い」8件（0.3%）。一方、英語での投稿を見ると、「とても良い」1,352件（71.3%）、「良い」440件（23.2%）、「普通」93件（4.9%）、「悪い」9件（0.5%）、「とても悪い」2件（0.1%）であり、英語投稿の方に高評価が多くみられる。以下に、最近の投稿を中心に、日本語と英語の具体的な投稿をいくつか紹介しておきたい。

- ・風情のあるすばらしい庭園：昨年秋に行きましたが、ちょうど紅葉のシーズンでもあり、もみじが非常にきれいな色をしていました。春や冬でもまた異なった色になると思いますので、次は違う季節の時に行ってみたいです。（訪問時期 2018 年 10 月）。評価<とても良い>
- ・冬景色が最高：ここには数回行きましたが、いつも冬場です。それはここは（ママ）冬景色が最高だからです。沢山の木々が雪化粧をして、冬の太陽に光り輝く風情が素晴らしいと思います。何回訪れても飽きない観光スポットです。（訪問時期 2019 年 1 月）。評価<とても良い>
- ・新緑が素晴らしい：いつの季節に行っても、よく手入れされたお庭が美しく、くつろげる。琴時（ママ）灯籠のところだけがとても混んでいるが、少し奥に行くときびっくりするほどすいている。ゆっくりと散策をして、成巽閣も観たりするのをお勧めする。桜の季節にお弁当を持っていくのもまた楽しい。少し奥に歩くだけで、ベンチもいくつもあるし人も少なくてゆったりとお花見ができる。（後略）（訪問時期 2019 年 5 月）。評価<とても良い>
- ・夏場の日中はちょっと厳しい：岡山の後楽園、香川の栗林公園、島根の足立美術館と比べてもここが一番だと思います。入場料金310円も安い。また、多くの観光資源は兼六園の周辺にあります。やはり、金沢を訪れて、ここを外すわけにもいきません。しかし、日中の観光は辛いです。（訪問時期 2019 年 7 月）。評価<とても良い>
- ・早朝に無料開放：金沢中央市場を見学した後に時間をもてあましていたところ早朝に無料開放していると知って行ってみた。さすがにこの時間はツアー客もなく他のお客さんはポツリポツリと見かける程度で朝の心地よい気温の中ゆっくりと鑑賞できました。（訪問時期 2019 年 7 月）。

評価<とても良い>

- ・ライトアップ：四季それぞれ何日か ライトアップされるようです。ホテルにポスターが貼ってあり ちょうど『その日』。昼間と違う雰囲気です。暗いので警備の方がたくさん配置され親切な案内でした。金沢城も併せてライトアップされていたので 是非訪れてみると思います。（訪問時期 2019 年 8 月）。評価<良い>
- ・Tranquil beauty: Enjoyed a lovely Sunday afternoon wandering through the garden. We saw visitors in traditional clothing, families, couples, all enjoying the beauty. The foliage, ponds/streams and layout were one of the best we have seen in Japan. (訪問時期 2019 年 5 月)。評価<とても良い>
- ・Gorgeous Gardens: Simply stunning and well worth the visit the attention to detail is incredible and we would highly recommended a visit. Everything is maintained by hand not a lawnmower in sight. (訪問時期 2019 年 7 月)。評価<とても良い>
- ・Lovely garden but very crowded in Spring/Summer: One of the best garden to visit in Japan. Everything that you expect from a Japanese garden. However, it was very crowded in May. Had to shuffle behind queues of people. There was little peace and tranquility. Just have to imagine what it might be like without the crowds. (訪問時期 2019 年 5 月)。評価<とても良い>

これらの投稿内容を見ると、日本語では春夏秋冬の各季節における兼六園の魅力、夜間のライトアップ時あるいは早朝開園時に訪問することの利点、さらに無料開園などに関する記述が多い。一方、英語では、庭園の構成や植栽・水景等の美しさに対する評価が多数を占め、手仕事での管理を評価する投稿もある一方で、混雑についてのコメントも見られる。庭園は空間的な美だけでなく時間の推移に伴う美も意識して造営され管理されるものである。トリップアドバイザーの投稿には、こうした庭園の本質を捉えた内容が多く含まれており、兼六園の管理運営の参考資料としても有効なものと考えられる。

ちなみに、トリップアドバイザーの「外国人に人気の日本の観光スポットランキング 2019」^{xvii}において、兼六園は総合 11 位で、庭園に限れば 6 位の新宿御苑および 10 位の金閣寺に次ぎ 3 番目である。新宿御苑が東京、金閣寺が京都という外国人観光者がたくさんで多い都市に立地することを考えると、兼六園の外国人観光者からの人気の高さは特筆されよう。

VII. 兼六園の今後の活用と管理運営の展望

前章までにおいて、兼六園の歴史を概観したうえで、現在の管理運営形態や実際の維持管理状況等について取りまとめ、外国人を含む入園者数の推移、行事（イベント）やボランティアガイドの取組み等を石川県金沢市・兼六園管理事務所から

提供された資料に基づき分析・考察し、さらに金沢市の観光の現状とその中での兼六園の重要性を確認、さらに旅行関連口コミサイト・トリップアドバイザーでの評価等に関しても若干の考察を加えた。これらを踏まえながら、兼六園の今後の活用と管理運営の展望を示したい。

石川県直営という管理運営形態については、県民のコンセンサスが得られる限り、それを継続していくことが適切であろう。ただし他地域の文化財庭園の指定管理者が導入している文化財庭園として適切な活用の手法等で導入できるものは導入していくといった積極性も求められよう^{xviii}。庭園の維持管理については、伝統的な樹木管理技術が適切に継承されるとともに、樹木管理・除草清掃も常時適切に行われていることは高く評価できよう。一方で、園内の民間の一部の店舗に対する景観意識の向上への呼びかけも求められるところである。

入園料については、適正化・弾力化を検討することが望まれる。具体的には、まず通常入園料の値上げ（高校生以下は据え置き）のほか、入園料免除日の削減であろう。また、65歳以上の入園料免除は県民のみに限ることも強く望まれる。さらに、入園者の季節によるバラツキを平準化し、繁忙期を中心としたオーバーキャパシティを減じるという観点で、桜や紅葉の季節に繁忙期料金を導入することや県民の入園料が免除となる県民観賞日を現在の土・日曜日から平日へ変更することなども真剣に検討してほしいと思う。もちろん、こうした入園料等の改正にあたっては、従来あるいはそれ以上の入園料収入が確保できるということにも留意が必要である。なお、季節的な入園者の平準化という観点では、春秋の繁忙期に上述したような対応を取る一方、夏には時雨亭内での休憩や木陰等へのベンチの設置あるいは夜間開園日の拡大、冬には時雨亭内での休憩といった具体的なサービス向上も考える必要があろう。

さらに、兼六園の文化的価値や歴史的庭園としての価値に着目したイベント等の積極的な展開も提案しておきたい。具体的には、兼六園や日本庭園の歴史や文化を知るための講座の現地開催や、各季節の樹木管理技術のデモンストレーション、庭師による庭園案内などが考えられるのではないだろうか。

以上、提案を中心に、兼六園の今後の活用と運営についての展望を述べてきた。歴史的・文化的意義を持つ文化財庭園においては、技術の伝承を含めた庭園の総合的な保存が第一義的に重要であり、その良好に保存された庭園を適切に公開し、入園者に現象的な美しさとあわせて構造的な文化的意義も理解してもらうことが重要である。その意味でも、オーバーキャパシティは大きな課題であり、入園料などを利用して入園者数を適切にコントロールすることが求められていると考える。日本を代表する歴史的庭園の一つで、最多の入園者をほこる文化財庭園である兼六園において、今後、先駆的な管理運営が展開されていくことを期待したい。

本稿の作成にあたっては、石川県金沢市・兼六園管理事

務所ならびに同所長・藤村秀人氏に資料提供等で大変お世話になった。記して感謝申し上げたい。

なお、本稿は平成31年度科学研究費基盤C「我が国の庭園観光の適切かつ持続的推進に向けた研究」（代表者：小野健吉、課題番号19K125470004）の成果の一部である。

注

- i 「東京都所管文化財庭園の観光を含めた活用の展望」『観光学』16号 pp.25-38、和歌山大学観光学会、2017。「三溪園の活用と運営の展望」『観光学』18号 pp.63-72、和歌山大学観光学会、2018。「相楽園の活用と運営の展望」『観光学』20号 pp.47-55、和歌山大学観光学会、2019。
- ii 長山直治『兼六園を読み解く—その歴史と利用』桂書房 2006、本康宏史「金沢兼六園」『大名庭園の近代』思文閣出版 2018、「特別名勝 兼六園」（パンフレット）石川県金沢市・兼六園管理事務所。
- iii 天理大学附属天理図書館蔵「花月日記」文政5年9月20日条。（「金沢兼六園」本康宏史、『大名庭園の近代』p.144、思文閣出版 2018）。
- iv 長山直治「兼六園とはどこのことか」『兼六園を読み解く—その歴史と利用』pp.145-161、桂書房、2006。
- v 本康裕史「金沢兼六園」『大名庭園の近代』pp.160-162、思文閣出版、2018。
- vi ちょうどこの頃、東京都では美濃部亮吉知事が有料であった旧浜離宮庭園等の東京都所管の国指定名勝庭園の無料化を実施しており、そのことによる庭園の荒廃が指摘されていた。都知事の交代に伴い、1978年（昭和53）にこれらの庭園は再度有料化される。
- vii 彦根城と玄宮楽々園は彦根市が直営で管理運営を行っている。
- viii 『平成30年（2018）金沢市観光調査結果報告書』（金沢市経済局営業戦略部観光政策課）によれば、金沢市の外国人宿泊者数は、2015年：256,092人、16年：396,173人、17年：448,267人、18年：522,343人と4年間で倍増している。（<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/14897/1/kanko-chousa2018.pdf?20190607174846> 2019年9月2日アクセス）
- ix デイヴィッド・アトキンソンも、旅行大国でありながら現状では相対的に少ないドイツの観光者の訪日を推進すべきことを指摘している。（『世界一訪れたい日本のつくりかた』p.91、東洋経済新報社、2017）
- x 兼六園案内所作成「平成30年度 兼六園入園者・入園料調べ（No.3）」
- xi 大阪府が所管する大阪城では65歳以上の大阪市民、京都市の二条城・無鄰菴などでも70歳以上の京都市民など、所管地方公共団体の住民に限定しているところが大半である。
- xii 前身の「兼六園教養セミナー」は、1990年度から実施。
- xiii 「加賀藩5代藩主・前田綱紀は、1676年（延宝4年）に作事所を城内に移し、その跡に蓮池御亭（れんちおちん）を建て、その周辺を作庭しました。これが兼六園の始まりです。6代藩主・吉徳は御亭を建て替えましたが、明治のはじめに取り壊されるまで、今の噴水の前にありました。藩政後期には時雨亭とも呼ばれており、平成12年3月に現在地に再現しました。庭側の10畳と8畳、さらにそれに続く御囲は、残されていた当時の平面図により復元した部分です。」（兼六園ウェブサイト www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kenrokuen/signature.html 2019年8月17日閲覧）
- xiv 東京都の旧浜離宮庭園入園者738,003人のうち、中島の御茶屋での抹茶サービスを利用したのは105,732人（数値はいずれも2015年度）と14.3%にのぼる。
- xv 「座敷1・2・3・4」が全日47,720・午前24,480・午後28,490円、「座敷5」が全日15,630・午前8,020・午後9,360円、「全亭」が全

日 63,360・午前 32,500・午後 37,850 円。

xvi <https://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/26166/1/toukeishoH30.pdf?20190426171728> (2019 年9月2日アクセス)

xvii <https://tg.tripadvisor.jp/news/ranking/best-inbound-attractions/> (2019 年9月2日アクセス)

xviii 例えば指定管理者制度を導入している京都市の無鄰菴では、茶の湯・庭園フォト・庭師による植栽管理実技などの多彩な講座、和室を利用した各種展示、フェローやフォスティングメンバーといった会員企画、庭師等のスタッフによる有料・無料の庭園ガイドなどの積極的な取組が行われている。

受理日 2019 年 11 月 18 日